

<概要>

- 国内では、長雨による災害が深刻化し始め、国連総会出席のため米国を訪問中であったカストロ大統領が、国家危機対策本部（SINAGER）の緊急会議を召集。同大統領がオンラインで同会議に出席する中、セラヤ大統領顧問（カストロ大統領の夫）が、政府一丸となり事態に対応し、更なる災害への備えを進める旨述べ、同会議を取り仕切った。他方で9月は、連立与党内で、ナスララ大統領代行（ホンジュラス救済党）とセラヤ元大統領（リブレ党）の確執が顕在化した月でもあった。
- その他、市民団体「ホンジュラス反汚職評議会（CNA）」が国会の活動を評価した報告書を発表。国会を違法状態、対立に満ちた政治ショーの場であると批判した。
- 外交面では、カストロ大統領が第 77 回国連総会に出席し、演説を行った。また、ニューヨーク滞在中、グテーレス国連事務総長、ク・ドンユ F A O 事務局長、グランディ難民高等弁務官などと会談を行った。同大統領に同行したレイナ外相も、ロドリゲス・キューバ外相、ブカロ・グアテマラ外相、ゼヤ米国務次官とバイ会談を行い、各国との関係強化に取り組んだ。

<本文>

1 内政

（1）降雨災害を受けての国家危機対策本部（SINAGER）会合の招集

22 日、北部コルテス県をはじめとする国内各地で続く降雨による災害等に対処するため、米国滞在中のカストロ大統領は、SINAGER の緊急会議を召集。大統領府においてセラヤ大統領顧問による司会進行の下、カストロ大統領自身はオンラインで出席する形で会議が開催された。セラヤ大統領顧問は、国内関係機関が連携しながら政府一丸となり、各地で広がる災害への緊急対応、更なる災害への備えを進めると述べた。

（2）ナスララ副大統領とセラヤ元大統領の間の確執

12 日、プエルトリコを訪問中のナスララ副大統領は SNS の動画を通じて「米国への麻薬密輸は、2006 年までドミニカ共和国を経由して行われていたが、2006 年以降、ホンジュラスの方が安価で容易であるとしてホンジュラス経由に変わった。その後、ホンジュラスはこの 16 年間惨劇に苦しんできた」と発信し、ホンジュラスでの麻薬密輸はセラヤ政権時代に本格化したことを示唆した。これに対して、同日、セラヤ元大統領は自身のツイッターで、ナスララ副大統領が、政府として経済開発を目的に医療用大麻の栽培を進めるべきと言いつつ、ホンジュラスが麻薬密輸天国となったのは 2009 年のクーデター後であること、大麻栽培を言い出す人物（ナスララ）は、既に大麻を吸引しているはずだと述べ、舌戦を繰り広げた。

（3）市民団体による国会評価

9日付け当地主要各紙は、当国における市民団体「ホンジュラス反汚職評議会（CNA）」が、「投票する（だけの対象としての）国会から（我々が真に有する）国会へ：Del Congreso que votamos al Congreso que tenemos」と題する報告書を発表したと報じた。その中で、2022年1月に発足した現国会を、2つの役員会の存在により、違法で対立に満ちた（政治）ショーの場となってきたと批判した。また、CNAが実施した世論調査によると、国民の70%は、現国会を「平凡（Mediocre）」と評価しており、45%は国会議員が国民に利益をもたらさないと考えているとした。その他、国会が承認した520億レンピーラに及ぶ予算再編成に対して疑問が呈され、また、2022年上半期に日当・旅費等で7,876万750.33レンピーラが拠出され、無駄な予算執行が存在する等指摘した。

2 外交

（1）国連総会におけるカストロ大統領の一般討論演説

20日、第77回国連総会において、カストロ大統領は要旨以下のとおり演説を行った。

ア この総会に自分（カ）が登壇することは歴史的な意味を有する。自分（カ）はホンジュラス史上初の女性大統領に就任した。ホンジュラスでは（2009年の）クーデター、その後13年間の独裁政権による殺人、不正選挙、パンデミック、そして2度のハリケーンによる様々な苦難を経て民主的に選出された最初の大統領でもある。

イ ホンジュラスは、再興、威厳、主権といったビジョンと共に国造りの最中にある。環境を回復し、共通善の探求のために合法的に活動する。貧しい国々にとって現在の国際秩序は受け入れがたいものであり、同時に、文明国を自認する国は、侵略、戦争、金融投資、インフレを通じて幾度となく我々を苦しめている。我々は平和に暮らしたいと、ここで敬意を持って皆さんに求める。我が国を不安定にしようとしたり、我が国が誰と友人になるべきか強要しないでほしい。

ウ 我々の政府は法の支配を取り戻し、二度を同じことを繰り返さない。財政の濫用を排除し、経済を刺激するために一生懸命働く。我々は労働者の権利、食糧安全保障のために農業セクターを守り、人権とエネルギー問題にも取り組んでいる。我々はいわゆる侵略された国家として、自己決定権の回復を主張する。我々は、キューバに対する残忍な禁輸措置を拒否する。世界は多極化していることにつき真剣に議論する時である。

（2）国連総会出席中の主なバイ会談等

ア カストロ大統領

（ア）ク・ドンユFAO事務局長

19日、カストロ大統領は、ク・ドンユFAO事務局長との間で、ホンジュラスにおける農民と若者に対する支援を通じ、農業・食料供給システムの改善について意見交換を行った。

（イ）グテーレス国連事務総長

21日、カストロ大統領は、グテーレス国連事務総長との間で、創設準備中のホンジュラス汚

職・無処罰問題対策委員会（CICIH）について意見交換を行い、CICIH 設置に向けたプロセスを一層加速することで一致した。

（ウ）フィリッポ・グランディ難民高等弁務官

21 日、カストロ大統領は、グランディ難民高等弁務官との間で移民問題につき意見交換を行った。会談後、グランディ難民高等弁務官は自身のツイッターを通じ、「難民の根本原因への対処につき議論した。カストロ大統領との会合は有益であった。同大統領に感謝する」と発信した。

（エ）米国のミレニアム・チャレンジ会計（MCA）関係者

21 日、カストロ大統領は、ダン・バーンズ MCA マネージングディレクターと会談を行い、MCA がホンジュラスを再び同支援枠組みの対象国に含めるよう要請した。当国政府広報テレビ局 Canal 8 は、MCA 側が「ホンジュラスの努力を我々も認識している。過去には協働し、成果も挙げた。」とし、ホンジュラスが復帰のための要件を充たすことを期待していると報じた。

イ レイナ外相

（ア）ロドリゲス・キューバ外相

19 日、レイナ外相は、ロドリゲス・キューバ外相と会談を行い、保健、教育、文化、科学、スポーツ分野における両国間の連携・協力関係の強化につき意見交換を行った。

（イ）ゼヤ米国務次官（民主主義・人権担当）

20 日、レイナ外相は、ゼヤ米国務次官と会談を行い、ホンジュラス移民、市民の安全、汚職防止につき意見交換を行った。会談後、ゼヤ国務次官は自身のツイッターを通じ「西半球全体で移民を協力的かつ人道的にマネージメントすることが重要である」と発信した。

（ウ）ギルモア EU 人権特別代表

21 日、レイナ外相は、イーモン・ギルモア EU 人権担当特別代表との間で、人権分野での連携・協力関係強化につき意見交換を行った。

（エ）ブカロ・グアテマラ外相

22 日、レイナ外相は、ブカロ・グアテマラ外相との間で、中米統合、二国間関係強化につき意見交換を行うと共に、両国間の技術協力協定に署名を行った。

（3）セラヤ国防大臣による米国訪問

8 日、セラヤ国防大臣及びセラヤ大統領私設秘書官は、ホセ・フォルティン国軍参謀長、ハビエル・ブ駐米大使を伴い、米国防省にてエリクソン国防次官補（西半球担当）と面会した。米国防総省によると、米とホンジュラスは歴史的に友好的な関係を維持してきており、今回二国間関係の

強化、人権の尊重、国境を超えた脅威への対応などについて話しあったとされている。

(4) 主要ドナーによる対ホンジュラス援助（注：新型コロナ対策関係の支援は以下★を参照）

ア 我が国

24 日、日本政府の支援により整備された、首都テグシガルパ市フエルサス・ウニダス地区及びカンポ・シエロ地区の防災インフラの引渡式が実施された。式典において、アルダナ・テグシガルパ市長は、首都圏には災害に対して脆弱な地域が約 800 カ所存在していることに触れつつ、これらの防災インフラは人々の命を守るための投資である旨述べた。

イ 米国

8 日、当地 U S A I D は、当国乾燥回廊（Corredor Seco）に面している Cholteca 県 Apashra 市において、住民の生計向上を目的に 150 世帯を対象として有機肥料作成、害虫管理、自家配合飼料作成等に関する研修を実施した。また、当地世界食糧計画（WFP）と連携し、対象世帯に 2,200 レンピーラ相当の食料クーポンが配布された。

ウ 台湾及び中米経済統合銀行（BCIE）

12 日、マルチネス BCIE ホンジュラス代表は、同 3 日から実施していた BCIE 関係者の台湾訪問の結果報告に関する記者会見において、台湾政府と CABEI は、エル・カホンダム水力発電所における第 5 番目となるタービンの新規整備について協議を行っている旨明らかにした。また、両者はタービンの新規設置に加え、ホンジュラスにおける新たな太陽光発電所の整備の可能性についても検討している旨述べた。

エ その他、スペイン、イスラエル等（新規病院建設）

29 日、マテウ保健大臣は、スペイン、イスラエル、台湾、世銀及び IDB による融資等を原資として、首都テグシガルパや北部サンペドロスーラ市のほか、サンタバルバラ県やオランチョ県等の地方部、さらには観光地ロアタン島において計 7 つの新規病院を建設する予定である旨、当地主要紙エル・エラルド紙の取材の中で述べた。

3 新型コロナウイルス

(1) 当国における 9 月の新型コロナウイルス感染状況（9 月 26 日現在）

ア 平均新規感染者数：70 人/日

イ 累計感染者数：456,391 人

ウ 平均新規死亡者数：1 人未満/日

エ 累計死亡者数：10,993 人

1 日新規感染者数の平均は、7 月が 478 人であったが 8 月には 407 人となり、9 月は 70 人にまで低下した。公立病院の入院患者も、全国で 30 人以下、ICU 入院者も数人と落ちついている。屋外でのマスク着用不要を提案する与党高官（医師）もいるが、政府は、引き続きマスク着用や

アルコール消毒、物理的距離の維持などの基本的予防対策を行うよう、呼びかけている。

(2) ワクチン接種ほか

ア ワクチン接種状況：接種対象者比で、一回以上接種者は 83%（5 歳以上）、二回以上接種者は 73%（5 歳以上）、三回以上接種者は 55%（5 歳以上）、四回接種者は 41%（条件付きで 12 歳～39 歳、40 歳以上全員）。

イ 8 月 12 日に 1 例目のサル痘患者が確認され、9 月 30 日までに累計 6 例が確認されている。いずれもテグシガルパ市在住の男性で、状態は安定しており、自宅にて経過を観察された。サル痘流行による特別な水際対策は取られていない。

(3) 各国支援

9 月、韓国政府は、新型コロナ対策として同国企業 Bioneer 社の PCR 検査キット 13 万ドル相当を供与した。また、UNICEF は COVAX 経由で 8 台のスーパーフリーザーを供与することを決定。

<主要経済指標>

◇主要経済指標	2022 年			2021 年
	9 月	8 月	7 月	
インフレ率（前年同期比）	10.04	10.40	10.86	5.32%
貿易収支（百万ドル）	—	—	—	▲4,824
輸出（百万ドル）	—	—	—	10,215.9
輸入（百万ドル）	—	—	—	15,039.9
外貨準備高（百万ドル）	8209.3	8330.5	8377.7	8,677.6
外国からの送金（百万ドル）	—	—	—	7,184.4
為替レート（対ドル月平均）	24.71	24.58	24.60	24.41

（出典：ホンジュラス中央銀行） ※貿易収支、輸出入、外国送金は、四半期毎に発表

（了）